

地域密着型金融の取組事例について

タイトル 食農体験学習

JA名 JA三原（広島県）

1 動機 (経緯)	<p>食卓に至るまでの一連の稲作体験と作業過程および多面的機能を学んでもらうとともに、米に関する理解と農業へ関心をもってもらうため、総合学習の時間に学校水田を活用しての児童たちが豊かな自然と農業の営みを伝える食農教育の一環として農業体験学習への取り組みがきっかけでした。</p> <p>現在では、稲作体験は総合学習の時間を利用しての恒例行事となり、平成24年は、160名の児童・教員が関わっています。</p>
2 概要	<p>毎年、児童たちが、JA三原の職員の指導のもと、田植えからの1年を通しての農業体験学習を行っています。</p> <p>5月に学校内の水田に植えた苗が立派に育ち、9月に稲刈り・脱穀が行われました。1月21日、刈り取った稲のもみすり・精米の体験学習をしました。</p> <p>精米されたお米は、授業でおにぎりにして、「上級生の作ったおかず」といっしょに、美味しくいただきました。</p>
3 成果 (効果)	<p>毎日の米について、生育過程や作業過程を知ることができました。</p> <p>また、いつもは袋詰めのお米も、自らが育て「もみから玄米」・「玄米から白米」の変化を体験することによって、農と食の「大事さ」、農業を身近に感じ、「好き嫌い」、「食べ残しが少なくなる」など食べ物を「大切に」する意識を深めることが出来たと思います。</p>
4 今後の 予定(課題)	<p>例年、体験学習の為の栽培となっていたため、水稻の生育があまり良くなかったため、次年度のための土づくりから行い、今後も学校と連携しながら、活動を継続したいと思います。</p>